



RI 第2640地区

有田2000 ロータリークラブ



No. 944
Club Bulletin

会長 川島信治
幹事 浦崎寿光
クラブ会報委員長 樋口 明

職業奉仕月間

四つのテスト 言行はこれに照らしてから

1. 真実かどうか
2. みんなに公平か
3. 好意と友情を深めるか
4. みんなのためになるかどうか

例会日／毎週水曜日 19:00
事務局・例会場／〒643-0025
有田郡有田川町土生409
吉備インターゴルフセンター
TEL0737-52-8960
FAX0737-22-6800
E-mail: info@arida2000rotary.club
URL: http://arida2000rotary.club/

本日のプログラム

令和3年3月3日 第945回
ソング 「君が代」「奉仕の理想」
会長の時間 幹事報告 委員会報告
ニコニコ箱報告 出席報告
会員卓話 永石睦巳君

次のプログラム

3月10日 定款による休会
3月17日 会員卓話 南良暢君
3月24日 細則による休会
3月31日 会員卓話 前任君

前回の報告（第944例会）

開催日 令和3年1月20日（水）

開会点鐘 川島会長

ソング 「手に手つないで」

ゲスト

認知症と共に生きるまちづくり実行委員会

副実行委員長 木村 悟様

副実行委員長 宮井 智史様

実行委員 野田 優介様

実行委員 辻合 竜也様

●川島会長の時間●

皆様、こんばんは。

今日は、有田川町役場の認知症と共に生きるまちづくり実行委員会から4名様に来て頂いています。うちの家も88歳の母親がいて認知症の事は近頃、切実に感じています。後ほどの卓話よろしくお願いたします。

新型コロナウイルス感染は全国的に猛威をふるっています。有田にも感染者が時々出ています。皆様方には引き続き日頃の生活において注意されますようお願い致します。

今日は世界で一番有名ではないかなと私が思うロータリアンの話をします。その方のお名前はハーランド・サンダースさんです。どなたかお分



かりですか。カーネル・サンダースさんです。カーネルとは大佐の階級の事ですが、サンダースは兵役には就いたものの一兵卒で終わっており大佐にはなっていないようです。彼は1907年に軍隊を除隊後は様々な職業を転々としました。

1930年にサンダースはケンタッキー州に移り住みガソリンスタンドの一角に物置を改造したわずか6席の「サンダース・カフェ」を始めました。サンダースはガソリンスタンドの支配人と調理師とレジ係を兼ねました。店は大繁盛して規模を拡大しケンタッキー州から「ケンタッキー・カーネル」の名誉称号が与えられ、「カーネル・サンダース」と呼ばれる事になります。

「サンダース・カフェ」の目玉商品がフライドチキンでありました。圧力釜を使ったフライドチキンの製法は以後現在までオリジナルレシピとして受け継がれています。

1970年の大阪万博にはアメリカ館に日本初出店していたそうです。

1985年の阪神タイガースの際には熱狂的な阪神ファンがランディ・バースに似ていると言う理由で胴上げをした後、道頓堀川にカーネル・サンダース人形を放り込む暴挙に出ました。以来20年近く阪神が最下位を行ったり来たりと低迷しました。これがカーネル・サンダースの呪いと言われています。

今度ケンタッキー・フライドチキンに行かれ



た際にはカーネル・サンダース人形の胸元をご覧になってみて下さい。私達と同じロータリーバッジが付いています。

●幹事報告●

浦崎寿光君

・RI日本事務局より

My ROTARYのリニューアルに伴う修正中の問題について

・第2640地区より

1. 2020-21年度 青少年交換プログラムの中止について

2. 1/23 地区連絡協議会「開催見送り」のご案内

3. 2020-21年度 地区資金等の送金について

4. 「ロータリーの未来形成」に関して

5. 「2021-22年度 地区チーム研修セミナーのZOOMへの変更について」

・米山記念奨学会

1. 事務局勤務体制のご連絡

2. 2020-21年度 下期普通寄付金をお願い

3. ハイライトよねやま250号 1/15発行

・和歌山県より

新型コロナウイルス感染症に関する「県民の皆様へのお願い」

・例会変更はホワイトボードに掲示

・本日例会終了後、理事・役員会を開催



●出席報告●

梅本茂喜君

	会員数	出席者数	出席率
本日の出席	18名	14名	77.77%
7月～平均	18名	13.63名	76.76%



●卓話●

認知症と共に生きるまちづくり実行委員会

副実行委員長 木村 悟様

副実行委員長 宮井 智史様

実行委員 野田 優介様

実行委員 辻合 竜也様

●1月お誕生日御祝●

下林善信君

会員親睦委員長 芝穀君

より紹介

下林さん お誕生日おめでとうございます。



●ニコニコ箱●

川島信治君：今日は、認知症と共に生きる町づくり実行委員会様お越し頂き有難うございます

浦崎寿光君：認知症と共に生きる町づくり実行委員会様 本日の卓話宜しく願いいたします

梅本茂喜君：認知症と共に生きるまちづくり実行委員会様お越し頂き有難うございます。卓話宜しく願いいたします。

寺村公博君：認知症と共に生きるまちづくり実行委員会様、お越し頂き有難うございます。

樋口明君：認知症と共に生きるまちづくり実行委員会様、宜しく願いいたします。

永石睦巳君：認知症と共に生きるまちづくり実行委員会様、本日は宜しく願いいたします。



2012年時点での認知症の発症者の推計は65歳以上の15%の約462万人との調査結果があり、有田郡市では高齢化率が31～34%と高く、私たちの周囲ではさらに認知症の方が増えることは確実です。

若年性認知症や家族介護など、私たち一人ひとりの生活に直結する問題です。

大切なのは認知症の本人や家族はもちろん、地域住民、医療介護福祉関係者はもちろん、企業や自治体など、様々な立場の協力が不可欠だということです。

認知症と共に生きるまちづくり実行委員会（認とも）の活動は2014年、2015年と全国的なRUN伴（認知症の本人や支援者が一本のタスキを繋ぐイベント）の活動がきっかけとなり、2016年から有田圏域でアルツハイマーデー（9/21）に合わせ、啓発イベントを開催してきました。

今年度は新型コロナウイルス感染拡大防止の観点からイベントは中止し、SNSを利用しアンケート



を行うことになりました。

アンケートで「どのような町であれば安心して暮らせるか」という事について

1. 本人や家族だけに負担がかからないように共有できる人がいる。
 2. 安心して集まれる場所や話せる相手がいる
 3. 地域全体で見守る事ができる。
- この3つの意見が多くありました。



しかし、我々が日々認知症の方と関わる仕事をしていて感じることは、それは認知症とは非常に偏見の強い病気の1つだということです。認知症になったら何もできない、分からない、迷惑をかける。進行すればそうかもしれませんが、皆さんがそうではなく、認知症を隠さず、早期に適切な関わりや支援を受け、生きがいを持った生活を続けることが出来れば、進行は緩やかであることが、確認されてきています。ある認知症当事者はこのように言いました「専門職の支援より、必要なのは身近な人がこれまで通りに近くにいてくれること」です。認ともとロータリークラブが協働しお互いの強みを生かすことで、この有田地域が暮らしやすい町に繋がるのではないかと思います。本日を機に認ともとの活動に更なるご理解を頂き、今後有田2000ロータリークラブの皆さんと協力し、一緒に認知症の普及啓発活動を行っていただけることを願っています。



認知症サポーターになってください。

平成17年度から厚生労働省では「認知症を知り地域をつくる10カ年」キャンペーンを開始しています。これは、認知症について正しく理解し、認知症の人やその家族を見守り、支援する「認知症サポーター」を多数養成し、認知症になっても安心して暮らせるまちを住民の手によってつくっていくことを目指しています。

認知症サポーターとは

なにか特別なことをする人ではありません。認知症について正しく理解し、偏見をもたず、認知症の人や家族を温かく見守る応援者として、自分のできる範囲で活動します。

自分自身の問題と認識し、友人や家族に学んだ知識を伝えること、認知症の人やその家族の気持ちを理解しようと努めることもサポーターの活動です。

認知症サポーターになるには

「サポーター養成講座」を受講した人が「認知症サポーター」となります。

受講後には、「認知症の人を支援します」という意思を示す目印の「オレンジリング」が渡されます。



●閉会点鐘● 川島会長

認知症になっても「それがどうした!!」と、言える仲間、町であって欲しいと、願います。そんな素敵な、素晴らしい街であれば安心して安全に過ごすことが出来ると思います。